



岩手医科大学歯学会30周年にあたって

岩手医科大学歯学会

会長 荒木 吉馬

1975年（昭和50年）11月3日に本学会が発足して、本年度で30周年を迎えました。本学会の前身とも言える歯学部創設期に発足した臨床歯学談話会（その後、歯学談話会と名称変更）以来、歯学部では各専門分野の研究活動交流の場を着実に築き上げてきました。この間、学会活動を通して歯学研究科の設立に大きく寄与したこと、あるいは地域歯科医療への貢献など、本学会が果たした役割は少なくありません。その陰には、歴代の会長をはじめ、役員そして会員諸兄の熱意と真摯な取り組み、あるいは苦勞があったものと思われます。30周年にあたり、まず以って、先人の功勞に心より敬意と謝意を表したいと存じます。

また、本学会のもつ意義、使命は、現在も従来と全く変わってはいません。歯科医学、歯科医療を發展させる担い手である会員相互の交流の場として、學術情報の発信源として、今後ともさらに相互に研鑽を積み、質の高い情報を提供して行かなければならないと思ひます。IT化時代の到来あるいは歯科医学を取り巻く状況の変化に応じて、学会運営方法など、時代とともに変容を迫られている部分もありますが、その基本は、藤岡幸雄第2代会長の言葉にあるように、「会員のための会員による会員の学会」であることとあります。本学会は、大学当局の支援を継続していただいておりますが、その多くはなんと言っても会員の協力によって支えられています。学内外を問わず、会員にとって有意義な活動を今後さらに摸索して行く必要があると思ひます。

30周年記念行事として、12月11日に記念講演およびシンポジウムが開催されました。記念講演には、諏訪中央病院の鎌田實先生に「がんばらない」けど「あきらめない」一命を支えるということと題するお話をさせていただきました。一般市民の参加もあり、たいへん盛況でした。鎌田先生は、今日の日本における医療の現状と問題点について、本質を突くお話を平易に話され、参加者に感銘を与えていただきました。特に人間にとって最期まで食べることの重要性を強調され、歯科医療に携わる者に大きな期待を寄せられました。われわれに課せられた使命を今一度思い起こし、市民に開かれた大学の学会そして歯科医療を支える學術団体として、これまでの30年を礎に次の30年に向かって着実に歩んで行きたいと考えております。会員諸兄のご支援、ご協力をお願いいたします。